

「入り口」と「踏み台」

05 Lifestyle

男たちよ
目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

今

年はココ・シャネル没後50年、香水N°5生誕100年のアニバーサリーとあって、シャネル界隈が盛り上がりつつある。ポップな「N°5ファクトリー5コレクション」は発売と同時に争奪戦だったようです。

ココ・シャネル本人にも脚光があたり、ドキュメンタリー映画は公開されるわ、芸術批評誌は特集を組むわ、さながらシャネル祭りです。

バワフルな女性でしたが、とりわけ驚かされるのがネットワーク力。孤児からスタートして7カ国にわたるネットワークを築き上げ、当時の著名人とひととおり付き合っています。なかでも才能あるイケメンとは必ず恋愛関係になる。驚異の恋愛力です。

身よりのないシャネルが社交界に入る橋渡ししてくれた最初の愛人が、バルサンというフランス男なのですが、フランス文学の大家、カッスイー

マ先生の表現によれば、バルサンはシャネルにとつての「入り口男」。社交界に必要な教養やマナーを手ほどきしてくれる男で、自らの身分を超えて別の世界に入り込みたい女性が必ず通過する男ということですね。

シャネルは次に、バルサンの友人でもあるイギリスの実業家、アーサー・カベルと愛人関係になるのですが、とても寛裕なカベルは、シャネルが自分の店を出すために資金提供をしてくれるのです。カッスイーマ先生の表現を再び借りるならば、こちらはシャネルにとつての「踏み台男」。

実際の最中にはそんな打算などなかったと思いますが、時間が経って関係を振り返ると、それぞれ「入り口」だったり「踏み台」だったという位置づけに見えるわけです。

さらに興味深いのは、バルサンとカベルはシャネルを一時共有し、最後はバルサンがカベルに譲るといふ形にな

るのですが、愛人を共有しても彼らは嫉妬をあからさまにしないのです。むしろ、寛大さを示し合うことがフランス式の恋愛であるようです。

その後、シャネルは富豪や亡命貴族や詩人や画家や音楽家と次々と浮名を流すのですが、そうした男たちと互角に渡り合うことができた土台となったのが、入り口男が教えた教養、踏み台男が提供した金、と見ることができなくもないのです。

ひよつとしたら、あなたも誰かにとつての「入り口男」や「踏み台男」という位置づけになっているかもしれないことに「目覚めなさい」。あんなに尽くしたのにすっかり忘れられたなどと恨んではいけません。「真の寛大さとは、忘恩を受け入れること」とシャネルも言ってます。



Profile

グローバル化が進む社交界事情にも通じる。密かな趣味は人間観察とコスプレ。好きな飲み物はモンラッシェ。日本ではほとんど知られていない、ある小国の女王とのウワサも!?



カトリーヌ10世
Catherine X